

# 地域おこし 協力隊通信



地域おこし  
協力隊員  
まつふじ ゆうや  
松藤 裕也

こんにちは、松藤裕也です。今回、このような機会をいただきましたので、皆野と自分の未来について少し考えてみたいと思います。



僕はこの4月から住民票を皆野町に移し、日野沢地区の借家で単身生活を始めました。家族は東京都杉並区にいます。妻と小学3年と1年の息子がおり、妻は都心の出版社で本の編集者をしていてそれなりに忙しい立場です。僕自身も、皆野での協力隊業務と東京での映像制作・演出業務と、なかなか忙しい日々です。忙しく働く妻に、手の掛かる息子2人を預けての二拠点生活ですが、そんな僕ら家族がこれまでどころなんとか上手くやれているのは、何と云っても皆野町の立地のおかげです。何せ東京から皆野まで、平日なら高速道路を使って90分あれば着く

のです(ちなみに僕のよく行く銀座の映画館までは電車を乗り継ぎ60分かかりますから!)。これなら家族に何かあった時でもすぐに駆けつける事ができますし、東京で仕事があっても移動が楽です。実際これまで何度も妻から「急な打ち合わせで帰宅が深夜になるから18時まで帰宅して夕飯を子どもたちに食べさせておいて」というような電話がありました。そうすると僕は16時過ぎに皆野を出発、子どもの帰宅を受入れ、夕飯、風呂、宿題などの面倒をみて寝かせます。そして次の日、仮に10時から皆野で打ち合わせが入っていたとしたら、8時に出発すれば十分間に合います。こんな事ができる好立地にありながら、東京とは全く違う世界が広がっている、というのが皆野の最大の魅力なのです。



「二拠点生活」、「テレワーク」、「ワーケーション」、加速するこれらの言葉。僕の事例からでも、皆野がまさにこの時流に乗る要素をバッチリ持っているのだとお分かりではないでしょうか。僕の協力隊としての肩書きは「移住促進担当」となっていますが、「移住」というのは最終ゴールです。そのゴールを勝ち取るためには、さまざまなる

シストが必要です。まずは「二拠点生活」から始めよう、とか「ワーケーション」で皆野の良さを知って興味湧いたというような事例をどんどん増やしていきたいと考えています。そして、これは重要なことですが、こうした事を通じてやって来てくれる人は「若い世代」であり「子どもがいる家族」である可能性が非常に高いという事です。こういった若い人たちの移住は、例えば、定年退職後の夫婦のみ、の移住とは全く意味が違っています。皆野町を良くしようと動いている僕ら全員が究極的な最終目標は、「将来にわたり持続可能な町を作っていく」事だと思っています。若い世代の流入こそが、そこに大きく寄与する事ができるのです。



一方、僕自身が皆野と東京の二拠点生活をしてみて、難しさを感じる部分もあります。

一番大きいのは子どもの教育問題です。今の日本では小学校は1箇所しか所属できませんが、もしこれが、離れた公立学校同士で互換性を持たせ、2箇所の学校を行き来することができたらどんなに素晴らしいことだろうと思います。親のスケジュール的にも自由度が格段に増えますし、何より子どもの教育にと

っても豊かな経験になるのではないのでしょうか。これが実現すれば、二拠点生活のハードルがグッと下がり、近隣のライバルに一歩差をつけることは間違いありません。もう一つは、移動にかかる交通費です。僕の例で言うと、関越自動車道の練馬〜花園間が片道1,900円です。で、ガソリン代なども含めると、一往復で6,000円以上かかります。月に5往復でも3万円です(実際はそれ以上往復していますが)。これは結構な負担です。ですので、一定の基準をもうけた上で「二拠点生活者」に認定された人には、交通費の補助をするか、もしくは鉄道の定期券のような制度を導入すれば、心理的・経済的負担がかなり軽減されるはずです。そしてこれもまた大きなPRポイントにすることが出来ます。

皆野は、その好立地と豊かな自然資源に未来の活路を求めることができます! そのためには課題を一つずつ洗い出し克服し、良い部分は広く首都圏エリアにPRしていく。そして何より、それらを町全体が「熱」を持って進めていくことが非常に大切なのだと思えます。僕自身も協力隊員として、微力ながら「熱」をおこし、町の発展に寄与できるように今後とも頑張りますので、応援よろしく願いいたします。



皆野での初仕事は竹柵作りでした!



息子たちも皆野が本当に好きなんです



得意のアウトドアを町づくりに生かします